

「脱原発、憲法改悪を許さない」で政党の連携を求める運動が始まった!

藤井克彦

昨年12月の衆院選結果による安倍政権の登場に、シヨック・危機感、それに「責任」を感じた。選挙制度の問題も大きいですが、日本の市民運動が選挙に影響を与えるようなことをしてこなかったことが大きな問題であり、長年市民運動をしてきたと思っっている私自身、そういう状況を変えていく責任があると思っただけです。

山本みはぎさん、池住さん、私の3人で何を柱に建てるべきかと議論したが、原発と憲法になった。後の池住さんの説明には、「この二つは、現世代だけでなく将来の世代に影響する生命と生活とにかかわる問題であるから」というのがある。政治を考える市民の会は、これらを目指す政党・政治団体に対して、7月の参院選やその後の国政選挙で候補者一本化の可能性も含めて連携・協力すべきであるとして、政党・政治団体に働きかけようというのがその結成の趣旨である。

3人が発起人となり、3月末に10人足らずの呼びかけ人をお願いし、4月下旬に広く賛同人を募り、5月9日に発足集会を行った。参加者は53名で女性会館の部屋はいっぱい。率直な意見の中に笑いもあり、会則・活動方針を修正確認し、役員を選んだ。

各政党・政治団体への申入れ・懇談

5月20日に日本共産党愛知県委員会（柏木啓韶書記長、八田ひろ子副委員長）、5月27日に社民党愛知県連合（木下義人代表、伊藤よしき幹事長）、6月1日に緑の党・東海（小林収・井上あけみ・尾形慶子・辻正三共同代表）、同日、みどりの風（石原紀彦（谷岡郁子衆院議員秘書）、竹岡正博（平山誠参院議員秘書））、同日、公明党愛知県本部（荒木清寛代表）に、6月4日に新社会党愛知県本部（和田米吉委員長、保田泉書記長）、6月10日に民主党愛知県連（大西健介民主党愛知県連政調会長）に、それぞれ共同代表・運営委員が直接赴いて申入れを行い、懇談した。これ以外にも、減税日本にも文章で申入れし、面会都合を聞いたが返事はなかった。

6.14「脱原発」「憲法改悪を許さない」を目指す政党と市民との討論会

申入れ活動の後半には、連携を目指す6.14討論会も計画し、政党等に参加を呼びかけた。公明党は、憲法三原則の堅持、原発のゼロを目指すのととで、ぜひ参加して欲しい要請したが、自民党とは友党であり自民党を呼ばないのであれば参加できないとのことであった。民主党は、2030年代後半にはゼロを目指す、憲法96条先行改憲反対のことで、やはり参加要請をしたが、時間的に出席でき

る人が見つからないなどの理由で欠席となった。こうして、社会民主党愛知県連合、新社会党愛知県本部、日本共産党愛知県委員会、みどりの風、緑の党・東海の参加による討論会がYWCAでもたれ、110名くらいの参加で活発な討論が行われた。「各政党・団体の考え方がわかった」、「連携の可能性はあると感じた。今後も努力する必要がある」など、大変好評であった。

政党の論理から政策実現の論理への転換、選挙に距離を置く市民運動自体の体質転換が大きな課題であり、なによりも多くの市民団体・個人が賛同して大きな運動にしないと壁は破れないのではないかと未だの方、早く賛同してください!!

(2013-6-16)